

海外安全対策情報（令和7年度）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）2025年1月～6月におけるパナマ全国の殺人件数

月 県	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ボカス・デルトロ	0	0	0	0	0	1
コクレ	0	1	2	0	0	4
コロン	13	10	6	7	13	10
チリキ	1	0	1	1	2	1
ダリエン	0	0	0	0	0	0
エレーラ	0	0	0	0	1	0
ロス・サントス	0	0	0	0	1	0
パナマ	28	29	32	29	33	24
ベラグアス	0	1	0	0	3	0
西パナマ	5	6	3	1	6	2
グナヤラ	0	1	0	0	0	0
エンベラ	0	0	0	0	1	0
ノベ・ブクレ	0	0	0	0	0	0
合計件数	47	48	44	38	60	42

（2）2025年1月～6月における殺人件数が多い都市上位

都市名	件数	都市名	件数
1 パナマ	114	13 チリキグランデ	2
2 コロン	52	14 ダビッド	2
3 サン・ミゲリート	52	15 アランヘ	1
4 アライハン	11	16 パル	1
5 チェボ	9	17 カロブレ	1
6 ラ・チョレラ	6	18 カニャサ	1
7 アントン	3	19 ドノソ	1
8 チャメ	3	20 ラ・ヴィジャ	1
9 ペノノメ	3	21 ラス・ミナス	1
10 ポルトベロ	3	22 マリアト	1
11 カピラ	2	23 オバルディア	1
12 チャグレス	2	24 サムブ	1

(3) 2025年1月～6月におけるパナマ全国の殺害方法

殺害方法	件数
拳銃類の使用	244
刃物使用	21
それ以外（撲殺等）	14

(4) 2025年1月～6月におけるパナマ全国の殺人曜日別

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
件数	45	36	42	34	37	34	51

(5) 2024年と2025年1月～6月におけるパナマ全国の殺人件数比較

年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2024年	41	62	43	35	43	64
2025年	47	48	44	38	60	42

出典：パナマ治安省国家犯罪統計機構（SIEC）

(6) デモ活動

- ・2025年の5月6月に、抗議活動が複数回発生しました。主にバナナ労働者、建設作業員、教職員が道路封鎖しボカス・デルトロ空港を封鎖するなど、様々な危険な状況が続きました。
- ・パナマ大学付近での講義活動中に、抗議活動者が投げた石に4歳の子供がぶつかり重傷を負って頭蓋骨骨折し病院に運ばれました。
- ・パナマ市のシェラトンホテルで抗議活動が、ホテルに向かって物を投げ始め、ガラス扉が割れるといった暴力行為が行われました。

(7) 薬物関係

- ・2024年は国内港で15,375包の違法薬物を押収しましたが、2025年これまでは、26,065包にのぼる違法薬物を押収しています。身柄拘束された人数は64人で、海上、陸上、河川、空港と複数の場所で拘束しました。組織犯罪が違法薬物を南米から北米やヨーロッパに輸送するために、パナマを通るルートが使われています。

(7) 車両盗難

- ・2024年自動車盗難は819件あり、2023年と比較して80件増加しました。また、車両だけでなく付属品の盗難件数も増加しており2024年は合計80件の事件が発生しました。DIJ（調査局）によると、犯行は無人情域や交通量の少ない地域を狙っており、その手口は窓を割って車両に侵入する方法と。イグニッションシステムを操作して車

を始動させて持ち去る方法です。昨年は、盗難車の中から337台が回収され、94人が逮捕されました。

2 邦人及び日本企業の安全対策

(1) 犯罪被害に巻き込まれないためには、安全のための三原則である「目立たない」「行動を予知されない」「用心を怠らない」を常に念頭に置いて行動することが重要です。

(2) 自動車運転中や道路を歩いているときに強盗被害に遭う可能性もあることから、屋外においては行動する時間帯や場所を考慮し、常に細心の注意を持って行動するようにしてください。

(3) 当地における強盗事件のほとんどは、拳銃や刃物等の凶器が用いられ、犯人の要求を拒否し抵抗、大声を上げる、逃げる等の犯人を刺激するような行為をした場合、殺傷される危険性が極めて高いことから、素直に犯人の要求に従うようにしてください。

(4) 車上荒らし対策として、たとえ短時間の駐車であっても車内に荷物を放置することのないようにしてください。犯人は様々な方法で被害者の隙をついて犯行に及ぶことから、所持品は常に肌身離さずに監視下に置くようにしてください。

(5) 当地における殺人事件の大半は、敵対するギャングや麻薬密売同士の対立抗争によるもので、特定の企業や外国人を攻撃対象としているものではありません。しかし、これらの抗争は時間と場所を選ばず発生することから、銃撃の流れ弾の被害に遭わないよう、十分注意する必要があります。

(6) 万が一、発砲事件の現場に遭遇した場合は、「現場から直ちに避難する」避難することができない場合は、「頭部を保護しながらその場でうつぶせに伏せる」「建物や堅牢な柱等の物陰に隠れる」を徹底いただき、まずは身の安全を確保するとともに、銃声が止み避難が可能と判断できるまでその場から動かない等の対策を取ってください。

3 殺人、凶悪犯罪等の事件邦人集住地区等における犯罪事例(殺人、殺人未遂、凶悪 犯罪) なし。

4 テロ・爆弾事件発生状況 なし。

5 勧誘・脅迫事件発生状況 日本人の被害は報告されていない。

6 日本企業の安全に関わる諸問題 なし